

『国際大会参加のチームリーダー及び選手の行動規範について』

一般社団法人日本ドラゴンボート協会

(趣旨)

この度は国際大会にご参加いただき感謝申し上げます。

日本を代表して国際大会にご参加いただくにあたり、大会の当日やその前後には大小含め予想外の事故やトラブルが発生する可能性があります。

これに対処するため、国際大会に参加されるチームの皆様には「チームリーダー1名」を事前に決めていただき、選手の事故・トラブル防止に努めてください。また、大会に複数チームが参加される場合、遠征期間中に短時間でも随時チームリーダーミーティングを行っていただき、情報共有をお願いします。

また、事故や怪我、個々の選手やチームで大きなトラブル等がありJDBAのサポートが必要な場合には、下記担当者にご連絡いただければ対応して参ります。

どうぞよろしく願いいたします。

JDBA 理事長 長谷川 伸

(JDBA 連絡先アドレス)

- ・長谷川理事長 : shintanno@yahoo.co.jp
- ・森永国際委員長 : hiroyukimorinaga0801@gmail.com
- ・菖蒲国際担当 : lilyshobu@gmail.com
- ・谷事務総長 : tatsuya.tani0307@gmail.com

○JDBA代表として国際大会に参加するチームリーダー及び選手の行動規範

一般社団法人日本ドラゴンボート協会は、本協会に登録し国際大会に出場するチームとその選手・関係者に対し、大会・競技ルールとマナーの順守を求めます。また、日本代表としての自覚と社会人としての常識を持ち、チーム内外の各選手や大会関係者の人格と尊厳を尊重することが必要です。ハラスメント防止に努め、責任ある行動を心がけてください。

ドラゴンボート競技の世界選手権大会、アジア選手権大会、また各国が招待する国際大会においては、JOC（日本オリンピック委員会）の行動規範がそのまま当てはまります。

以下、JDBAが加盟を目指すJOCの「行動規範」添付しますので、熟読して安全で楽しい大会になる様に皆様のご協力をお願いいたします。

『オリンピック（国際大会）を目指す選手に求められるもの』

公益財団法人日本オリンピック委員会

○ オリンピック（国際大会）を目指す選手の行動規範

1. 「責任ある行動」

我々はオリンピック（国際大会）代表に選ばれた時点から、国民の大きな期待と注目を受ける存在となることを自覚する。オリンピック大会（国際大会）の開催前、大会中、さらに大会終了後も「日の丸」を胸に付けた、国の代表としての誇りを忘れない。

我々の競技活動には国民の税金を含む強化資金が提供されており、オリンピック大会への派遣は国費で賄われる。こうしたことから国民の大きな期待に応えるには、競技での活躍だけでなく、競技を離れた場でも社会の模範となる行動を心がける。

2. 「規律ある行動」

我々は全てに規律ある行動をとらなければならない

- ・ 選手団の結団式や大会でのメダル授与式など公式行事では脱帽の上、姿勢を正して国旗を見据え「君が代」を斉唱する。他国の国旗掲揚でも、同様に脱帽、姿勢を正し、勝者に敬意を払う
- ・ 大会参加規定、肖像及びメディア活動等に関する規制事項を確認し、これらに抵触しないよう十分に注意する
- ・ 世界各国・地域からの選手団および開催地の市民との友好、親善に心がける

3. 「競技への心構え」

- ・ 自分が今日まで実践してきたトレーニングに自信を持つ。平常心で試合に臨む。試合では集中力を高める（プレッシャーに打ち勝つ）
- ・ 競技規則を守り、審判と対戦相手に敬意を払う（武士道の精神）
- ・ 独りではなく、日本代表選手団全員で戦うことを意識する（チームジャパンの意識）
- ・ 自らの責任においてコンディションを万全に整え、試合では実力を十分に発揮できるよう調整する

4. 「危機管理」

- ・ 大会現地では厳重な警備が敷かれるが、自分の安全を守るのは、結局は自分自身であることを自覚する。特にオリンピック資格認定証（ADカード）区域の選手村、競技会場などの外に出る場合は十分に注意する
- ・ けが、病気への対応は原則を守り、予防に徹する
- ・ 情報は常に幅広く共有する
- ・ 「危機管理マニュアル」を熟読し、理解する

5. 「ドーピングに関する対応」

- ・ アンチ・ドーピングの理念、必要性を十分に理解する
- ・ 薬を服用する場合は必ず事前にドクターに相談する

- ・ 競技会検査及び競技会外検査（抜き打ち検査）は、いつでも実施される可能性があることを認識する。その際の選手の権利と義務について確認しておく
- ・ 居場所情報の提出を怠らない

6. 「メディア対応」

- ・ インタビューには常に堂々と答える
- ・ 大会には世界各地からさまざまなメディアが取材に訪れる。競技や選手に対する理解が必ずしも十分でないメディアから、取材を受ける可能性があることを承知しておく。同じ質問を再三受けても、冷静に規律ある対応をする
- ・ 敗戦後のメディア対応も、対戦相手への敬意、支援してくれた関係者・ファンへの感謝を忘れずに行う
- ・ ブログやソーシャルメディアのガイドラインをしっかりと理解し、自身の発言が及ぼす影響の大きさを自覚する。

以上